

2025 年 3 月 28 日
株式会社三菱 UFJ 銀行

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の 3 つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定、緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、伊藤ハム米久ホールディングス株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。伊藤ハム米久ホールディングス株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

《本件の概要》

実行日	2025 年 3 月 28 日
契約形態	シンジケーション方式タームローン
アレンジャー・エージェント	株式会社三菱 UFJ 銀行
組成総額	200 億円

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社は、グループ理念「私たちは事業を通じて、健やかで豊かな社会の実現に貢献します」に基づき、持続可能な社会の実現に貢献することをサステナビリティの基本と考えております。その実現に向けて「7 つのマテリアリティ」を特定し、事業を通じた課題の解決に努めております。

本件の締結にあたり、環境・社会インパクトを与える活動として、当社の事業内容及び重要課題から以下のテーマを選定して、目標（KPI）を設定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト トピック	活動内容とインパクトの状況
＜社会＞ 健康・安全性 食糧	・安全・安心で品質の高い商品の提供 └原材料調達から製造、加工、流通、販売までの各工程、ならびに社外調達先も含め、法令に加え、安全性に関わるアレルゲンの管理や微生物管理、また原材料のトレーサビリティやフードディフェンスなど、当社グループ独自の基準に適合しているかの点検、監査の実施 └グループの生産施設は、FSSC22000、ISO22000、HACCP いずれかを取得している ・食品安全の第三者認証拠点比率：100%（2023 年度）
＜社会＞ 健康・安全性 食糧 ＜環境＞ 気候の安定性	・将来にわたるたんぱく質の安定供給 └プラントベースフードの開発強化、培養肉の研究 └培養肉未来創造コンソーシアムの設立：大阪大学大学院工学研究科、(株)島津製作所、凸版印刷(株)、(株)シグママクスとともに、2023 年 3 月、「培養肉未来創造コンソーシアム」設立 ・植物由来の大豆ミート商品ラインアップ：37 品目（2021 年度）
＜社会＞ 食糧	・多様なライフスタイルに対応した商品の提供、食品ロスの低減 └簡便性・時短のニーズに合った商品の投入、食品ロス低減につながる商品の拡大、冷凍食品事業の拡大 └2023 年度より、冷凍食品製造に特化した工場として夢工場を再稼働 ・冷凍食品販売額：167 億円（2023 年度）
＜社会＞ 雇用	・従業員の働きがいの向上 └働きがいの向上やダイバーシティの推進、ワークライフバランスの推進、労働安全衛生・健康管理・人権尊重といった従業員一人ひとりが活躍できる職場づくりに寄与する各種施策の実施 └従業員のエンゲージメントスコア：52.0%（2022 年度）
＜社会＞ 雇用	・従業員のモチベーション向上 └「従業員の働きがいの向上」「従業員のキャリア形成」に資する取り組みを実施 └定年退職者の再雇用：本人の希望と会社の判断のもと、最長 70 歳まで雇用を継続 └非正社員から正社員への登用：一定の評価基準を満たし、所属部門の推薦を受けた非正社員を対象に面談・試験を行い、正社員として登用処遇
＜社会＞ 雇用	・ワークライフバランスの推進、メリハリのある働き方の実現 └有給休暇：従業員が計画的に有給休暇を取得できるよう、期初に 5 日間の取得予定日を登録。有給休暇の取得実績・予定を管理し、進捗管理を実施 └労働時間：「ノー残業デー」を設定し、所定外労働時間の削減を推進、その他労働時間の短縮に関して、積極的に労使で協議 └仕事と育児・介護の両立：休業・休暇制度、短時間勤務制度、在宅勤務制度など、それぞれの状況に応じた多様な働き方を実現できる両立支援制度を整備。社内ポータルサイト、両立支援ハンドブック、育児介護相談窓口を通じて、社内の制度を周知・利用促進 ・有給休暇取得率（一人当たり年間）：71.1%（2023 年度）
＜社会＞ 雇用	・従業員のキャリア形成 └リスキリング支援の制度の導入（社外スクールや通信教育での学習機会の提供、資格取得への奨励金支給） └キャリア面談やジョブローテーションの実施、「社内フリーエージェント」「社内公募」などのジョブチャレンジ制度の導入・強化 └女性従業員を対象とした研修、仕事と育児・介護等の両立支援、在宅勤務制度の導入、就業継続支援制度（ジョブリターン制度など）によって、女性

	リーダー層の育成のための取り組み実施 └ 2024 年度より、FA 制度において、応募条件緩和し活性化を図る。部署説明会を拡充することで、他部署理解を深める機会を提供し、より流動的な異動を促進するとともに、キャリア支援に繋げる ・管理職の女性比率：6.0%（2023 年度） ・係長級の女性比率：11.8%（2023 年度）
<社会> エネルギー <環境> 気候の安定性	・電力の再エネ化の促進 └ 温室効果ガス排出量を 2030 年度までに半減（2016 年度比）する目標を掲げ、さまざまな排出削減取り組みを継続して実施 └ Internal Carbon Price の導入を含めた削減促進策の検討 └ 2023 年度 伊藤ハム米久フーズ(株)の六甲工場で屋根置き太陽光発電設備を導入 └ 2024 年度 伊藤ハム米久プラント(株)東北工場の購入電力 100%実質再エネ化（年間 9,000t 相当の CO2 排出量を削減）

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

インパクト トピック	インパクトの状況と、緩和・管理の状況
<社会> 現代奴隷 児童労働 雇用 賃金 社会的保護 民族・人種平等 その他社会的弱者	【インパクトの状況】 ・自社及びサプライチェーン上での人権侵害 └ 自社：2024 年度で対象拠点の 1/3 に対してインタビューを実施済 └ サプライチェーン：サプライヤー調査の項目において、人権に関する項目では即時 NG の項目を設定し、違反がないかどうか確認（過去 3 年で一度もない）、もしある場合には対話・是正措置を実施する想定である。今後、アンケート調査のカバー率の向上や内容の深堀などより高度な取り組みにつなげていく予定である 【緩和・管理の状況】 ・「人権方針」、「調達方針」「サプライヤー調達ガイドライン」を策定 ・サプライチェーン全体を対象とした人権影響評価を実施し、優先的に取り組むべき負の影響を特定/人権 DD の継続実施 ・救済窓口の設置 └ 自社： ・研修の拡充（コンプライアンス講習を外国人技能実習生向けに多言語対応、役職者向けハラスメント防止講習におけるジェンダー・多様性への理解促進） ・外国人技能実習生が実習に従事しているグループ内の全拠点を巡回予定（中計 2026 の 3 年間で外国人技能実習生ヒアリング全拠点実施する方針） └ サプライチェーン： ・「サプライヤー調査」で改善余地がある項目に関するサプライヤーの取り組み進捗確認 ・「サプライヤー調査」と取引先訪問の継続実施
<社会> 健康・安全性 食糧	【インパクトの状況】 ・品質管理不足による健康への悪影響（食中毒の発生など） └ 現状では確認されていないが、潜在的な可能性は存在する 【緩和・管理の状況】 ・品質理念・品質方針の策定 └ 品質理念・品質方針に基づくマネジメントの実施 └ 品質保証連絡会を起点とした品質管理体制の妥当性や検証、危機管理体制の教育訓練を実施 └ 製造工場の食品衛生監査を定期的の実施 ・「お客様の声会議」開催を通した、商品改善 ・品質関連の勉強会の開催

	└ 品質関連の従業員勉強会の開催 ・中央研究所による研究 ・自社 HP 上で食中毒防止に関する情報発信、商品パッケージでの保存方法の分かりやすい表記 └ お客様の声会議を介した商品改善や商品パッケージの分かりやすい表記
<社会> 雇用 賃金 ジェンダー平等	【インパクトの状況】 ・管理職、係長級に占める男女比率の格差、男女間の賃金格差 └ 管理職の女性比率：6.0%（2023 年度） └ 係長級の女性比率：11.8%（2023 年度） └ 男女の賃金の差異（HD）：全労働者 53.4%、従業員 55.8%、臨時雇用者（パートタイマー含む）68.1% 【緩和・管理の状況】 ・女性従業員の積極採用、女性従業員を対象とした研修、仕事と育児・介護等の両立支援、在宅勤務制度の導入、アルムナイの活用(キャリアリターン制度など) による、女性リーダー層育成のための取り組み実施
<社会> エネルギー <環境> 気候の安定性	【インパクトの状況】 ・事業活動に伴う GHG 排出の発生 └ Scope1, 2, 3 排出量： —Scope1 排出量（HD・子会社）：200 千 t-CO2（2023 年度） —Scope2 排出量（HD・子会社）：167 千 t-CO2（2023 年度） —Scope3 排出量（HD・国内連結子会社）：8083.5 千 t-CO2（2022 年度） └ エネルギー： —エネルギー使用量：6,763 千 GJ（2023 年度） —エネルギー使用量（原単位）：9.79GJ/t（2023 年度） 【緩和・管理の状況】 ・削減目標達成に向けたロードマップの策定、削減策の検討（太陽光発電設備の設置、製造拠点における高効率・省エネ設備の導入、再エネ電力への切り替え等） ・Internal Carbon Price の導入を含めた削減促進策の検討 ・牛のフィードロットにおけるメタン排出抑制についての研究機関との共同研究、食肉処理場への太陽光発電設備の設置等を推進（みらいファーム株式会社（和牛生産事業の協力農場）） ・肉用牛生産における温室効果ガス削減可視化システム構築事業への協力 ・伊藤ハム米久フーズ(株)の北陸工場にて、ボイラーの燃料転換を実施、六甲工場で屋根置き太陽光発電設備の導入を実施。（2023 年度） ・伊藤ハム米久プラント(株)東北工場の購入電力 100%実質再エネ化（年間 9,000t 相当の CO2 排出量を削減）（2024 年度）
<環境> 水域 水 生物種 生息地	【インパクトの状況】 ・家畜の生産や商品製造に伴う水使用・排水の発生 ・農場・工場の拡大による周辺の環境・生態系への悪影響の発生 └ 用水使用量：12,092 千 m³（2023 年度） └ 用水使用量（原単位）：17.5 m³/t（2023 年度） 【緩和・管理の状況】 ・生産工程における節水の継続、拡大。設備投資の検討 ・牧場地域における希少植物の保護、牧場周辺地域の希少種の保護 ・TNFD の枠組みに沿って分析を実施中であり、今後依存・インパクト・リスク・機会を特定したのち、重要地域に対して取り組みを実施していく予定 ・（ANZCO ランディキティ工場）工場全体の使用プロセスを見直し、それ以前と比較し水の使用量を 40%削減
<環境> 資源強度 廃棄物	【インパクトの状況】 ・商品製造・事業活動に伴う廃棄物の発生（家畜排せつ物や老朽化した設備など）

	└ 廃棄物排出量：59,827t（2023 年度） └ 廃棄物排出量（生産原単位）：86.6kg/t（2023 年度） └ 動物の糞のリサイクル率：100%（2023 年度） 【緩和・管理の状況】 ・廃棄物のリサイクルの継続、拡大 ・（米久エコ・プロジェクトセンター（静岡県富士宮市朝霧））自社工場や協力会社から排出される食品廃棄物をリサイクルし、良質な肥料（コンポストパワー／Compost Power）を年間約 500t 生産 ・（米久おいしい鶏（株））鳥取・静岡事業所にて鶏糞の燃料化や堆肥化により、本鶏舎から収集した鶏糞を 100%リサイクル
<環境> 資源強度 廃棄物	【インパクトの状況】 ・商品の容器包装としてのプラスチック使用による廃棄物の発生、商品配送時の包装資材の使用による廃棄物の発生 【緩和・管理の状況】 ・商品の包装サイズのコンパクト化の継続 └ 2022 年 2 月から「The GRAND アルトバイエルン」などの巾着形態商品を環境配慮型のコンパクトな形態に変更し、プラスチック使用量を年間約 150t 削減 └ 2023 年秋には「ポークビッツ」や「チーズイン」など 19 品を対象に、包材サイズを小さくすることにより、プラスチック使用量を年間約 65t 削減/2024 年春には、「The GRAND アルトバイエルン」のバンドルテープ、「朝のフレッシュ ウィンナー」など 5 品を対象に追加し、年間約 25t の削減を予定 ・包装資材の削減の取り組みの継続 └（伊藤ハム米久フーズ（株）神戸工場）チキン惣菜の包材、段ボール縮小により包装資材 35%削減、チキン惣菜の包装資材削減によりトラック配送便 40%削減
<その他>	【インパクトの状況】 ・事業活動におけるアニマルウェルフェアの無視 └ 過去 3 年間で妊娠豚舎の新築・改築はないため、特に廃止の実績はなし └ 2024 年度、自社農場にフリーストール方式を試験導入（母豚の群飼いを部分的に実施。母豚への影響や飼養管理上の課題等を検証） 【緩和・管理の状況】 ・アニマルウェルフェアポリシー、アニマルウェルフェアガイドラインに則った飼養管理の継続 ・妊娠ストール（豚）の廃止、群飼方式又はフリーストール方式への切替の継続検討 ・ステークホルダーとの対話やグループ従業員への継続した社内教育の実施 ・グループの国内すべての係留所に、常時、牛・豚が水を飲めるよう飲水設備を設置 └（大洋ポーク（株））豚にとっての快適な環境・温度管理、家畜の正常行動発現を助ける目的でエンリッチメント素材を使用するなどストレス低減を実施 └（米久おいしい鶏（株））鳥取事業所にて、鶏の感染症のリスク低減のため、「オールイン・オールアウト方式」を採用、鳥取・静岡事業所にて、鶏舎から収集した鶏糞を燃料として利用できるボイラーを導入し、熱源を鶏舎の床暖房に使うことで鶏のストレスを減らす工夫を実施 └（サンキョーミート（株））家畜に不要なストレスを与えるような行動や手荒な扱いの抑制、全プラントの係留所に飲水設備、モニタリングカメラ、暑熱対策のためのミスト噴射機やシャワー、送風機などを完備。有明ビーフプラントにおける、アニマルウェルフェア先進国でもある対米・対 EU 輸出の認定取得 └（IH ミートパッカー（株））常時、豚・牛が水を飲めるよう飲水設備を設置

	└ (ANZCO FOODS) 独自のアニマルウェルフェアガイドラインの作成、すべての食肉加工工場への、MPI (ニュージーランドの一次産業省) に承認された動物福祉事務所の常設、認定を受けた動物福祉担当社員の常駐、徹底した内部監査の実施
--	--

【目標 (KPI)】

内容	目標とモニタリング項目 (KPI 等)
安全・安心で品質の高い商品の提供 品質管理不足による健康への悪影響	【目標】 ・食品安全の第三者認証拠点比率:FSSC22000、ISO22000、HACCP のいずれかで 100%を継続 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・食品安全の第三者認証 (FSSC22000、ISO22000、HACCP のいずれか) 取得拠点比率 (連結)
多様なライフスタイルに対応した商品の提供 食品ロスの低減	【目標】 ・冷凍食品販売額: 200 億円 (2026 年度) ・2035 年に向けた長期的な目標として、簡便調理ニーズへの対応やフードロス削減への貢献のため、日本における冷凍食品の事業の展開 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・冷凍食品販売額 (連結)
従業員の働きがいの向上	【目標】 ・エンゲージメントスコア: 60%以上 (2026 年度) 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・エンゲージメントスコア (連結)
ワークライフバランスの推進、メリハリのある働き方の実現	【目標】 ・有給休暇取得率 (一人当たり年間): 70% (2025 年度) 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・有給休暇取得率 (一人当たり年間) (連結)
従業員のキャリア形成 管理職、係長級に占める男女比率の格差、男女間の賃金格差	【目標】 ・管理職の女性比率: 10% (2030 年度) ・係長級の女性比率: 20% (2030 年度) 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・管理職の女性比率 ・係長級の女性比率
自社及びサプライチェーン上での人権侵害	【目標】 ・サプライヤー調査カバー率: 調達額 80%を対象として毎年実施 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・サプライヤー調査カバー率 (連結)
事業活動に伴う GHG 排出の発生	【目標】 ・【Scope1、2 排出量】 └ 2030 年度までに半減 (2016 年度比) └ 2050 年ネットゼロ 【エネルギー使用量】(原単位) └ エネルギー (原単位): 2021 年度比で、毎年 1%減、3 年で 3% 減 【モニタリング項目 (KPI 等)】 ・Scope1、2 排出量 (連結) ・エネルギー使用量 (原単位) (連結)

家畜の生産や商品製造に伴う水使用・排水の発生 農場・工場の拡大による周辺の環境・生態系への悪影響の発生	【目標】 ・ 水使用量（原単位）：2021 年度比で、毎年 1%減、3 年で 3% 減 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・ 水使用量（原単位）（連結）
商品製造・事業活動に伴う廃棄物の発生（家畜排せつ物や老朽化した設備など）	【目標】 ・ 廃棄物排出量（原単位）：2021 年度比で、毎年 1%減、3 年で 3% 減 ・ 動物の糞のリサイクル率：100%を維持 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・ 廃棄物排出量（原単位）（連結） ・ 動物の糞のリサイクル率（連結）
事業活動におけるアニマルウェルフェアの無視	【目標】 ・ 妊娠豚舎を新築・改築する場合は、妊娠ストール方式を廃止し、群飼方式もしくはフリーストール方式の飼育方法とする 【モニタリング項目（KPI 等）】 ・ 妊娠ストール（豚）の廃止（連結）

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目（KPI 等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上